

女賊お澄

帝キネ 時代映畫

原作者  
脚色者  
監督者

撮影者

澤田 松  
上田 量  
山田 一  
下子 三  
厨子 奥

——主要役割——

女賊お澄  
平尾 銀  
内田 屋英之助  
千原 儀右衛門  
同伴 儀三郎  
河童の清吉  
岡田 屋長十郎  
佛師 新七  
娘 お文  
差配 雷兵衛  
解説 山下秀一氏の「深川の唄」に次ぐ作品である。

寫眞  
「女賊お澄」帝キネ山下秀一作品。  
右より鈴木澄子と片岡童十郎。



略筋——夜の暗に包まれて風の如く去來する五人組の強盜團、どうも首領は女らしいと脱んだ御用聞き英之助は、ある晩素晴らしく仇つぽい女易者を救けてふとあやしい胸のさきめきを感した。奥方の千葉親子は預り娘お絹の財産を横領したが、お絹の戀しい人英之助はよりむいても呉れず、彼女に悲しみのあまり死なうさしたところを女易者の伴天連お澄、實は盜賊の首領に救はれ、仇を討ち、戀人に添はせるさいふお澄の俠氣に惚つた。お澄はすぐさま千葉親子を色氣でおびきよせ苦もなく殺して了つた。一方女賊の後を鏡く嗅ぎつけた英之助は女易者の邸へふみ込んだが、お澄と顔を合せるも又棄つて來る情熱、「逃げて呉れつ」と頼んだが饑火のお澄、しかし捕へるもの、捕へられるもの、因果な戀、又英之助を思ふお絹の心、お澄もあれこれ心は亂れたが、その中にも追るもの、遂に彼女はお絹を連れて西京へ高飛びした。その地で借り寮の持主岡田長十郎といふ排々隊の好色を利用し、彼の犠牲になつた娘達を救つて溜飲を下げた。しかしこの事件がきっかけとなり再び追つて來た英之助と再會し、互の胸は燃えだが、突如お澄は胸にヒストルをあて、お絹と英之助を結びつける爲めに死んで行つた。